

医心 伝心

糖尿病性腎症重症化予防について

県医師会常任理事 井川 晃彦

今年も11月14日の世界糖尿病デーに合わせて、県内の病院や医師会が中心となって糖尿病の啓蒙活動を中心とした関連イベントが開催されます。平成24年の厚生労働省による国民健康・栄養調査では、糖尿病が強く疑われる者と糖尿病の可能性を否定できない者を合わせると約2050万人と推計され、平成9年以降初めて減少に転じました。一方、糖尿病と診断されながら治療を受けていない未受診者の割合は4割にものぼり、また治療中断者も多いのは変わりありません。糖尿病は放置すれば重症化し、合併症が増加します。特に糖尿病腎症による人工透析は患者さんの生活を変えざるをえなくなり、医療費も一人当たり年間500万円かかると推定されています。新規透析導入患者のうち糖尿病腎症の占める割合は40%以上で、年間1万6千人を超えているようです。日常の診療でも、糖尿病の患者さんの尿タンパクが陽性で、血清クレアチニンが1.5mg/dlを超えていると将来の人工透析の危険性をどのように伝えようか悩みます。かかりつけ医である糖尿病非専門医を対象とした重症化予防のための専門医療機関との連携体制も構築されていますが、患者さんに勧めてもなかなか受診に繋がらないので困っている先生方が多いのでないでしょうか？

今年3月に日本医師会、日本糖尿病対策推進会議、厚生労働省の3者で糖尿病性腎症重症化予防に係る連携協定が結ばれ、糖尿病性腎症重症化予

防プログラムが策定されました。これに基づいて富山県でも①糖尿病重症化リスクの高い未受診者・治療中断者への受診勧奨・保健指導の実施。②かかりつけ医と保健の連携による、治療中のハイリスク糖尿病及び糖尿病腎症患者の重症化予防。を目的としたプログラムが今年度中に策定される予定です。各医師会を通じて先生方へプログラムに基づいた診療が求められるのではないかと思います。

一方、かかりつけ医の糖尿病診療の技術向上もなくてはなりません。富山県では早くから糖尿病重症化予防対策を始めており、かかりつけ医向けの糖尿病診療用指針、糖尿病重症化予防対策マニュアルも作成され配布されています。県医師会では県の委託を受けて、来年1月に糖尿病診療に係る研修会を準備しています。研修会では国のモデルとなった埼玉県糖尿病性腎症予防の取り組みを埼玉医科大学かわごえクリニック片山茂裕先生にお話をさせていただきます。加えて、かかりつけ医の糖尿病診療の向上に向けて県内の糖尿病専門医に講義をさせていただきます。また、富山県糖尿病診療用指針ワンポイントレッスンとして糖尿病診療のポイントを医報とやまへシリーズ化して掲載していきます。世界糖尿病デーをきっかけにして、日頃の糖尿病診療を見直したいと思います。